

兵庫県漁協貯蓄

八〇〇億円達成運動要綱

〔基本方針〕

全国的に漁協貯蓄の伸びが鈍化しているなか、本県においては飛躍的な伸びをみ、昭和六三年度末において六八六億円の貯蓄となり、最終目標年度を二か年繰り上げ、かつ、目標額をはるかに上回る成果を得ることができた。今後においてはこの

余勢を駆り、新たに「兵庫県漁協貯蓄八〇〇億円達成運動」を実施する。本運動は、漁協の特性を十二分に発揮し、漁家貯蓄の漁協集約、地域金融機関としての地位確立を目指して、別途「兵庫県漁協信用事業整備強化運動」の展開を通じて、漁協の

三、達成目標額
 平成五年三月末残高八〇〇億
 (単位:百万円)

年度	達成目標			
	1年度	2年度	3年度	4年度
63年度(実績)	91,150	32,400	33,700	35,000
残高	91,150	1,250	1,300	1,300
純増加額	1,091	1,250	1,300	1,300
伸び率	3.6%	4.0%	4.0%	3.9%
残高	16,710	18,200	19,600	21,000
純増加額	988	1,490	1,400	1,400
伸び率	6.3%	8.9%	7.7%	7.1%
残高	23,140	23,400	23,700	24,000
純増加額	319	260	300	300
伸び率	1.4%	1.1%	1.3%	1.3%
残高	68,600	71,000	74,000	80,600
純増加額	2,400	3,000	3,000	3,000
伸び率	3.5%	4.2%	4.1%	3.9%

平成元年年度通常総会開催

瀬戸内海漁場環境保全対策連絡会

当連絡会は、漁場油濁事故が頻発している状況のなか、これまで関係漁連単独で油濁による漁業被害の発生防止に関する活動を進めてきましたが、関係漁連が連携を強化し、その力を結果として油濁事故の発生防止対策を積極的に推進することを目的に、昭和五八年六月一三日に設立いたしました。

以後、毎年、研修会の開催、油濁事故防止啓発用ポスターの作成等を行い、また、昭和六三年度から赤潮の情報交換も併せて実施してまいりました。

このたび当連絡会の通常総会を開催いたしましたのでその結果をご報告します。

(平成元年通常総会)
 平成元年六月二〇日午後三時より福岡市のセントラルホテルフクオカにおいて、平成元年通常総会を開催しました。

当日は、瀬戸内海関係漁連一〇会員の出席と全漁連役員部長代表、油濁基金長高野聖典、環境保全協会伊藤常務の臨席をいただき、会長の長町香川県漁連専務の長岡俊彦の挨拶の後、各来賓の方々からご祝辞をいただきました。続いて長町会長を議長に選出後、議案審議に入り、第一号議案「昭和六三年度事業報告並

びに収支決算の承認に関する件」、第二号議案「平成元年度分担金の決定に関する件」、第三号議案「平成元年度事業計画並びに収支予算の決定に関する件」、第四号議案「任期満了に伴う役員の変更に関する件」が上程され、いずれも原案どおり可決承認されました。

なお、役員の変更については、次のとおり選任されました。

会長 長町俊二 (香川県漁連専務)
 副会長 青 正輔 (兵庫県漁連専務)
 監事 浜村 博 (山口県漁連専務)
 〃 山崎 東 (大分県漁連専務)



油濁事故防止啓発用資料を作成して会員等に配布する。

一、研修会の開催
 油濁事故の現状及び濁被害対策の現状及び問題点について、会員相互の情報交換を行うと共に、油濁事故防止意識の高揚を図るための研修会を開催する。

二、広報普及活動の実施
 油濁事故防止啓発用資料を作成して会員等に配布する。

三、赤潮情報交換網の構築
 赤潮情報交換網により、赤潮情報報告担当者会議を開催する。

四、その他
 本会の目的達成のため必要な事項

漁海況情報

平成元年6月 兵庫県立水産試験場

海況 (明石海峡周辺) 旬平均水温は上旬一八・一℃、中旬一八・九℃を示しており、平年に較べて上旬はほぼ平年並み、中旬は〇・四℃低目である。

(大阪湾西部・紀伊水道北部) 八月一五日の調査結果によると大阪湾の表層水温は一・九℃から二・〇・一℃の範囲にあり、ほぼ平年並みか、やや低い程度である。また紀伊水道北部の表層水温は一・八・七・二・〇・八℃の範囲にあり、全体的に平年より約一℃程度低目である。

(播磨灘) 六月一、二日に実施した調査の結果によると、表層水温は一・六・八・一・二・〇℃の範囲にあり、ほぼ平年並みである。

漁況 (小型底曳網) 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網(ちん漣)では、マコガレイ、アナゴ、ウマツラハギ、マダコ、サルエビなどが主に漁獲されている。また板網ではアナゴ、マダコ、エビなどが主に漁獲されている。小型底曳網の漁獲量は全般的に悪く、播磨灘ではウマツラハギの漁獲が多い。

(一本釣・曳網釣) 明石海峡及びその周辺海域ではスズキ、タチウオ、サバ、カサゴなどが主に漁獲されている。紀伊水道北部では、先月に引き続きマアジの漁獲が多く、大型のものも多量にみられる。

(船曳網) 大阪湾のシラス漁は六月後半に入り、マシラスからカタクシラスが主となった。漁獲量は多いものの、エビなどの混雑が多いため、値が安くなっている。

海区漁業調整委員会だより

六月二十八日 兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会委員協議会を県中央研修センターで開催

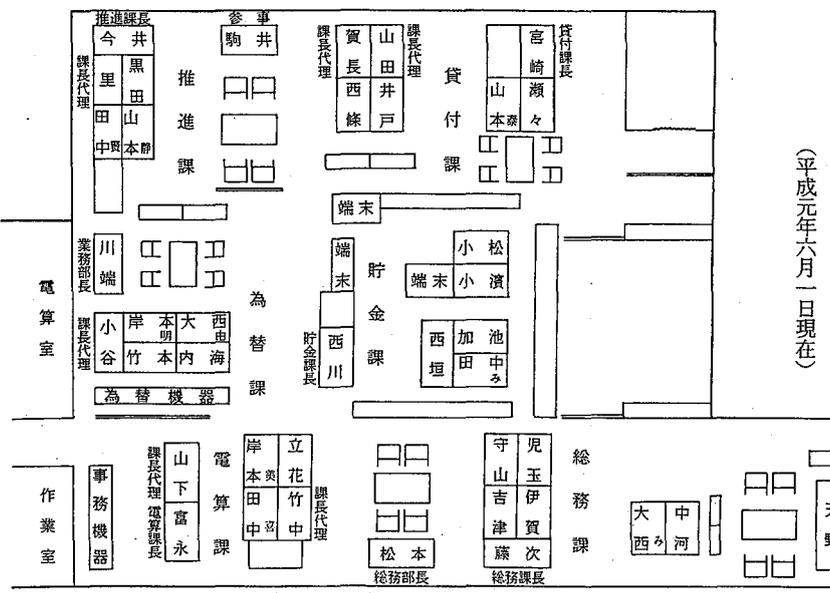
一、各地区における漁業の自主規制について
 平成元年五月三十一日現在で瀬戸内海関係六十一漁協を対象に実施した、自主規制の調査結果について、県水産事務所会議室で開催

六月二十三日 但馬海区漁業調整委員会委員協議会を但馬水産事務所会議室で開催

一、定置漁業に係わる

兵庫県信漁連 職員配置図

(平成元年六月一日現在)



漁場計画の事前協議について
 浜坂町相模地区の小型定置漁業者の要望による、定置漁業の漁場計画について、但馬水産事務所より事前協議がなされました。

二、日本海漁業調整委員会連絡協議会の提出議題について
 韓国漁船に対する我が国漁業禁止期間の遵守等について、提案することになりました。

(一)べにすわいがに漁業について
 べにすわいがに漁業の農林水産大臣承認制に係わるスケジュール案、平成元年度べにすわいがにに漁業の許可取扱方針案について、但馬水産事務所から説明と協議がなされました。



24時間オールワツク
神戸漁業無線局
 (呼出名称) こうべぎょぎょう
 (専用周波数) 26912KHZ

普及員たより

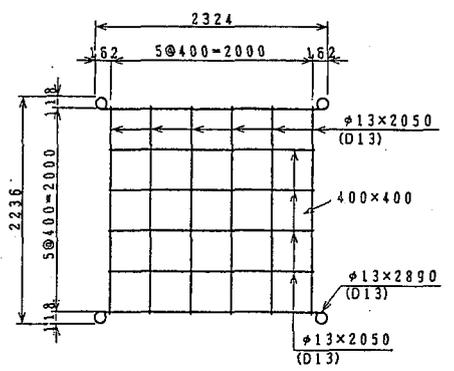
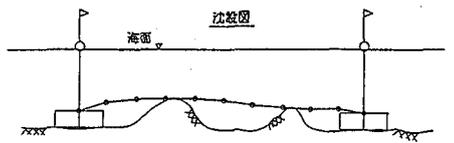
溶接鉄筋板によるアワビ等の資源管理並びに増殖試験

今回は淡路普及班の今年の活動予定の中から新技術企業化試験として課題の試験について紹介したいと思います。何やら長ったらしい訳の分からない題名ですが、図のように鉄筋で四〇cm間隔に井桁で組んだパネル(二×二m)を繋げて大きなアワビ・ウニ等の生育に

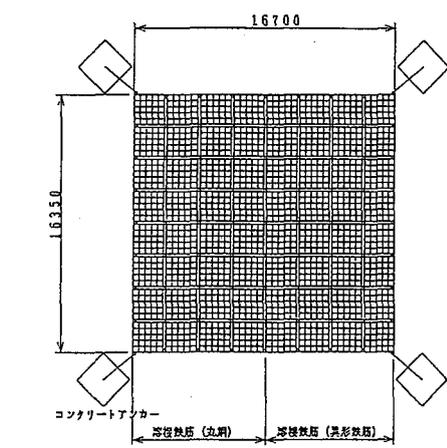
適した機に被せるといふものです。この目的は一次的には、密魚防止です。ただそれだけでなく資源管理さらには漁獲増殖へと進めたいと考えています。背景として、県内各地でアワビ・ウニ等磯根資源の密魚が長年の重大な問題となつていふ現状があり、淡路の由

良地区では多くの潜水漁業者がアワビ・ウニ等の採捕で生計を立てています。しかし限られた漁場の中での高い漁獲圧力により年々漁獲が減り、資源管理をしなければという危機感を持つつつも総論賛成・各論反対という世成の中で、具体的な実行になかなか移せないという現状があります。

施設の特徴
①潜水による密魚、特に問題となつていふ海底の石を返して根こそぎ獲るといふことが不可能となる。
②いさりや又潜水でも手の届く範囲での漁獲等資源に与える影響が比較的軽微な漁法では漁獲可能である。
③鉄筋は餌となるカジメ等の附着基質となるため餌場の造成が期待できる。
④単純な構造なので比較的安価で広範囲をカバーできる等が挙げられます。



やじろパス



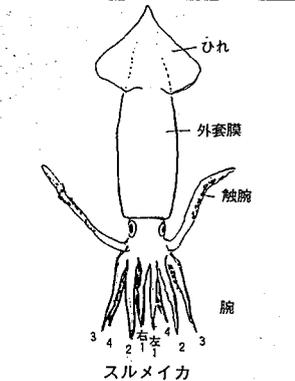
これらを踏まえ、密魚防止さらには資源管理増殖のために、たとえ獲りたくても獲れない様な施設しよう。資源の増殖を図れる方法はないかと、この試験に取り組みます。

今年度は南淡漁協、川鉄建材工業(株)の協力を得てこの施設を

但馬魚便り

〈スルメイカ〉

日本海に分布しているスルメイカは、大きく分けて秋生まれ、冬生まれ、夏生まれの三群に分けられます。このうち沿岸イカは夏生まれ群が主で、佐渡以南から対馬周辺沿岸域に分布しているローカル性の強い群。梅雨の晴れ間但馬沖の夜は海は生まれ群が漁獲対象で



平成元年6月20日 神戸海洋気象台

7・8・9月の3か月予報

大坂管区気象台発表

盛夏期は暑さが厳しいですが、秋の訪れは順調でしょう。

この期間、近畿地方に影響する台風は、1から2個の見込みです。

7月：梅雨前線の活動が活発となり、局地的な大雨の恐れがあります。平年より遅く梅雨明けした後は暑い晴天が続くでしょう。

8月：前半は暑さが厳しい見込みです。後半は大気の状態が不安定でにわか雨や雷雨の日が多いでしょう。

9月：移動性高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。残暑は長続きしない見込みです。

*梅雨明けの平年日7月17日
遅いとは平年日より4日以上遅い場合をいいます。

東シナ海を主産卵場とし、沿岸域より離れて沖を回遊しています。漁獲から帰港まで数日の航海となりますので水敵して持ち帰ります。

日本近海に棲息するイカ類のうち最もポピュラーな種がこのスルメイカでイカ類総生産量の九〇%を占め昭和三五年代は六九万トン(全国)もの水揚げがありました。近年の但馬のイカ漁は昭和六一年に二八〇〇トンと落ち込みましたが六二、六三年は六〇〇〇トン前後に回復しました。これは全国的に見ますと七位程度の漁獲量というところです。

最近一日の漁獲量は、余部定置網で三〇〇四〇kg、香住港では五〇〇二〇〇kgの沿岸イカと時々入港する沖イカが四〇〇〇〇五〇〇kgといったところ。

津居山港でも同様の水揚げが続いており、今後は沖イカに主力が移行していく時期であり、このころで成熟した雌イカは口の周囲に多くの精虫が植えつけられており交接後であることが確認出来ます。産出された卵塊はフットボール大で約一〇万粒程度の沈性付着卵塊で、鶏卵白様の粘性をもった透明な膠質卵囊に包まれています。ふ化前の卵は長一・〇〜一・三mmの球形となり四五日程度でふ化します。ふ化幼生をリンコトイチス幼生といひヒレ(みみ)がなくふ化直後のマダコによく似ています。(但馬水産事務所 試験研究室)



民俗文化財に指定されました。これは秋田、福井(二町)、鳥取に次ぐ五番目の指定で、かつては全国的に分布していたものが都市化や核家族化が進み、簡略化、消滅して行く中で昔ながらの形を残す久々の草蒲網は大変意義のあるものです。

6月25日放送

但馬・浜坂 端午の節句

初夏の磯の香りが漂う六月の浜坂。その一番裏の集落に大三尾と小三尾という二つの小さな漁村があります。浜坂は一枚ずつ掲げて干されたワカメがカラカラと風に吹かれています。大三尾、小三尾、合わせて約三〇〇人の人が暮らしています。

兵庫JCC通信

今、農協・生協では

農業協同組合 日本食文化と農業を考へる市民講座を開講 日本食文化と農業を考へる市民講座を開講 日本食文化と農業を考へる市民講座を開講

市民講座開催一覧

回	日	時	場	所	テーマおよび講師
2	7月26日	13:30~	111号室	県農業会館	「食の安全性～氾濫する危険な食べ物」 日本子孫基金 小若順一氏
3	8月23日	10:00~	協管内	神戸市西農	「生産現場見学会」 ぶどう 狩り
4	9月11日	13:30~	101,102号室	県農業会館	「日本料理と文化～本物のグルメ志向」 料理研究家 土井 勝氏



さな東にして屋根に上げます。次の日の草蒲おろしは子供たちの仕事。揃いのハッピにひっかけ棒。草蒲束を集めてまわり保存。これを材料に保存会の人たちが「石場突眼」に合わせ

お父さんが釣ってきた鯛の焼きもの。小さな主役の初節句を心から喜び合う家族のつながりは本当にすがすがしいものです。浜坂町で三尾は海に臨み、山あいには久谷という集落があります。人口約二六〇人。久谷は民俗行事が大変大事に考えるところ。取材がおもしろいのは前日のお酒を編み上げていく作業。「なるほど」と、

以前は旧五月五日に行われていましたが、現在は毎年六月五日の夜八時から本番です。おもしろいのは前日の草蒲網を編み上げていく作業。「なるほど」と、

ここに暮らす人々の気持ちや伝わってくる様子が、子供から大人まで皆、役割があります。傍観者がいないのがこの祭りの良さだと思えます。まきはかまをもつて草むらへ網に使う草蒲、ススキ、よもぎを刈り取りに出かけます。草蒲はその独特の香りが邪気を払うと言われ、ススキはサヤサヤという葉の音が神のよろしうとされ、よもぎは長寿の草と伝えられています。それらを小



網は大人組の勝利に決めています。これは一方の側に吉兆の意味を祈り、豊作や大漁を祈る伝統的な綱引きの形と言えます。(こち海スタッフ)

一人百句

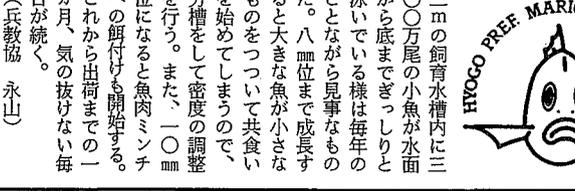
文月

水揚げの 鱧に天神祭くる
海軍に 賭けし青春雲の峰
夾竹桃の 朝風に解くもやい舟
漁夫金剛 力士のさまに日焼けて
晩涼や 眺めて輝ける鯛の紅
晩夏光 汐風に揺る干蜻かな
万緑や 矛のしづくの島に住む
七月の 潮ノ面走る風の稿
涼しき灯 岬の宵を深うしぬ

栽培漁業センターです

(13)

梅雨入りとなり、うっとうしい天候が続いていますが、栽培センターの職員一同の気持ちは少し晴れ間が見えだしたよう。というのも三月下旬より始めたヒラメ育苗生産事業が疾病の発生直しの結果、ようやくゴールが見え始めたからだ。鯛などを中心にスクーチカという五〇mm位の織毛虫が多量発生したり、また原因不明なもの的大量死など。職員総出、休日出上の毎日が続いたが、そのたまたまのどかか元気な小魚が育ちだし、水槽内では餌の培養や水質管理が本格化していった。



赤潮テレホン情報
078 942-1534